

3. 再就職の状況

- 求職活動中の就業形態の希望と、再就職後の就業形態の差をみると、正社員及び短時間の非正社員は、希望と実際の差が比較的少ない。一方、フルタイムの非正社員は、「正社員（フルタイム／短時間）」を希望していた割合が31.5%に対し、実際は5.5%しか正社員に就けておらず、希望が叶わず「パート・アルバイト」等で再就職した人が一定程度みられる。
- 再就職後の職種は、正社員は「その他一般事務」「専門職・技術職」がそれぞれ2割強、フルタイムの非正社員は「その他一般事務」が約4分の1、「サービス（調理、接客等）」「専門職・技術職」がそれぞれ2割弱、短時間の非正社員は「サービス（調理、接客等）」「その他一般事務」がそれぞれ2割前後を占めている。正社員、非正社員とも、特に「その他一般事務」を求職活動中に希望しながら、実現しなかった人が比較的多い。
- 現在の勤務先の従業員規模は「50人以下」が4～5割、「1,001人以上」が1割強である。
- 再就職後、仕事に慣れるまでの期間は、「再就職後、3か月くらい」までが4割強、「再就職後、半年くらい」が2～3割を占めている。
- 再就職した理由は、「子どもの教育費や生活費がかかるなど、経済的理由のため」が7～8割強で最も多く、次いで「生活を充実させたり、変化を持たせたりしたいと思ったから」があげられている。正社員は、非正社員に比べて「自分の技術や能力、勉強したことを社会で活かしたいと思ったから」が20.9%で割合が高くなっている。
- 再就職先を決める際に重視したこととしては、「仕事内容が希望に合っていること」「希望する雇用形態であること」「職場が近いこと」「残業がない、少ないこと」が多くあげられている。
- 求職活動中の利用機関・情報サービスは、「ハローワークやマザーズハローワークの相談窓口」が4～6割で最も多い。また、非正社員は正社員に比べて「新聞の折り込みチラシ、新聞の求人欄」「求人サイト、就職関連サイト」の利用割合が高い。
- 再就職前に不安のあった人は8割前後にのぼり、「子育てと両立できるか」「仕事についていけるか」「職場の人とうまくやっていけるか」などを不安に感じている人が多い。ただし、そのうち半数程度は、実際に再就職してみると「思っていたほど、心配はなかった」と答えている。
- 再就職活動で苦労したことは、「希望する条件に合う仕事が見つからない」「子どもが小さいため、家族などの支援体制がないと断られてしまう」が多くあげられている。
- 再雇用制度について、「制度があったかどうかわからない」が最も割合が高く半数前後を占め、制度の利用者は1割未満である。利用した（したい）理由では、「退職前のスキルや知識を活かして働くことができるから」「以前勤めていた会社に愛着がある（あった）から」などの割合が高い。

(1) 再就職時の仕事について

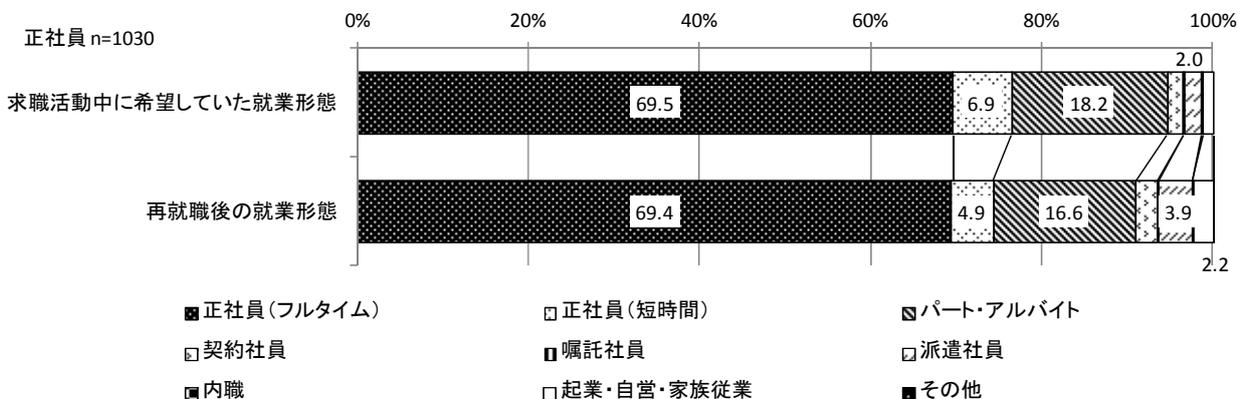
①求職活動中の就業形態の希望と、再就職後の就業形態

求職活動中に希望していた就業形態と再就職後の就業形態をみると、正社員は求職活動中に希望していた就業形態は「正社員（フルタイム）」が69.5%、「パート・アルバイト」が18.2%を占め、再就職後の就業形態は「正社員（フルタイム）」が69.4%、「パート・アルバイト」が16.6%と希望と実際の差はあまりみられない。

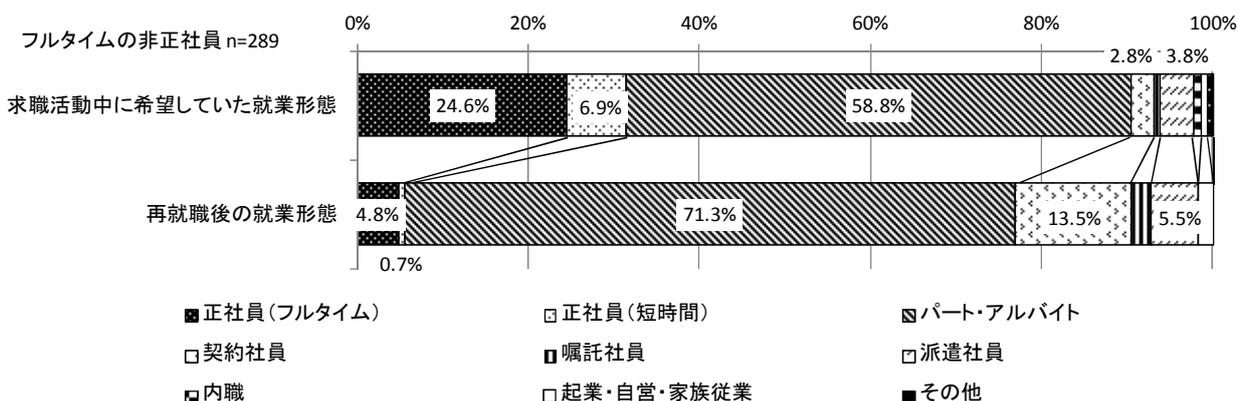
フルタイムの非正社員は、「正社員（フルタイム）」を希望（24.6%）と実際（4.8%）の差が大きく、正社員に就くことができなかった人が、「パート・アルバイト」（希望58.8%、実際71.3%）や、「契約社員」（希望2.8%、実際13.5%）になっている。

短時間の非正社員は、フルタイムの非正社員と同様に、「パート・アルバイト」の希望（82.9%）に比べて、実際（90.3%）の方が多く、「正社員（フルタイム）」、「正社員（短時間）」は希望より実際の方が少ないが、その差はフルタイムの非正社員に比べると小さい傾向にある。

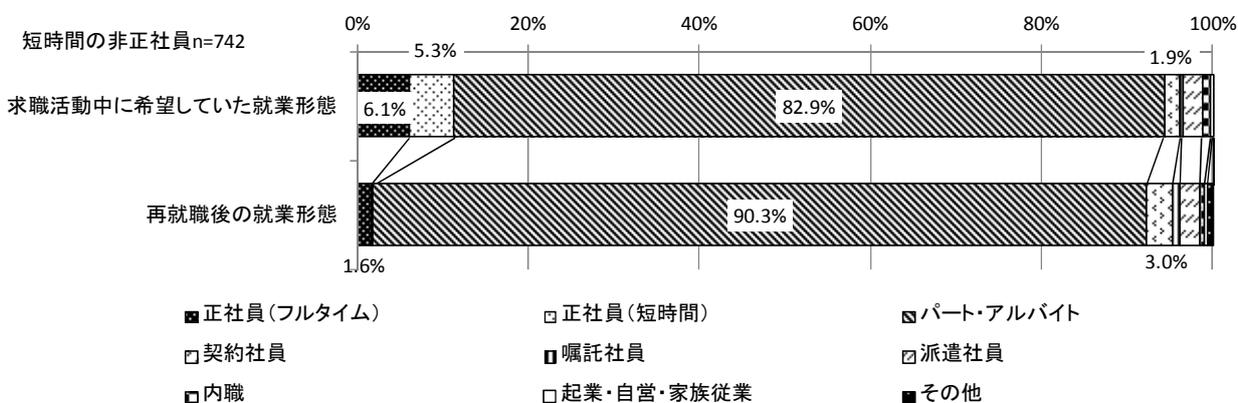
図表 29 求職活動中の就業形態の希望と、再就職後の就業形態【正社員】：単数回答（Q19）



図表 30 求職活動中の就業形態の希望と、再就職後の就業形態【フルタイムの非正社員】：単数回答（Q19）



図表 31 求職活動中の就業形態の希望と、再就職後の就業形態【短時間の非正社員】：単数回答（Q19）



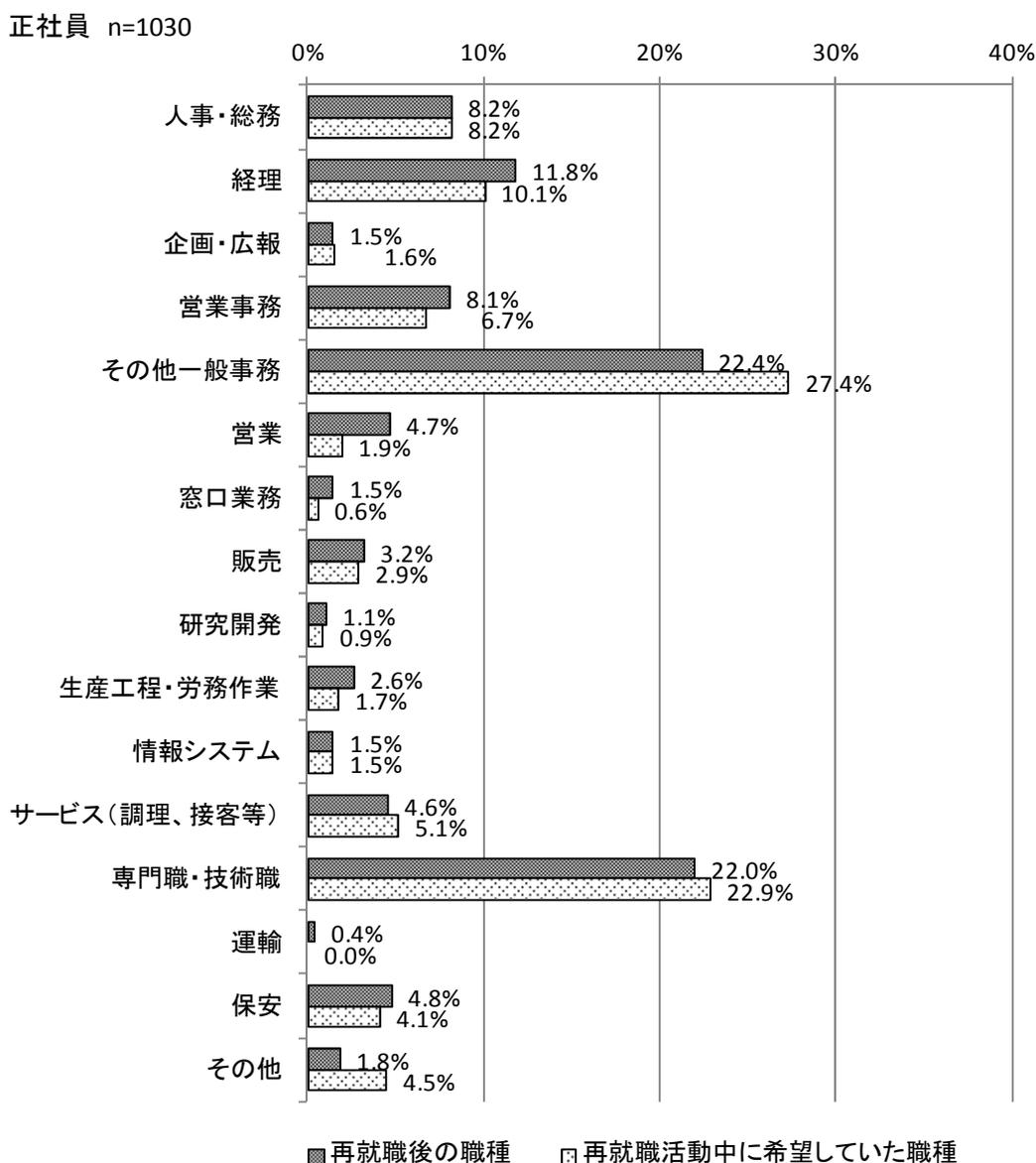
②求職活動中の職種の希望と、再就職後の職種

求職活動中に希望していた職種と再就職後の職種をみると、正社員は「その他一般事務」で希望（27.4%）と実際（22.4%）にやや差がみられるが、それ以外はあまり差がなく、「専門職・技術職」はともに2割強となっている。

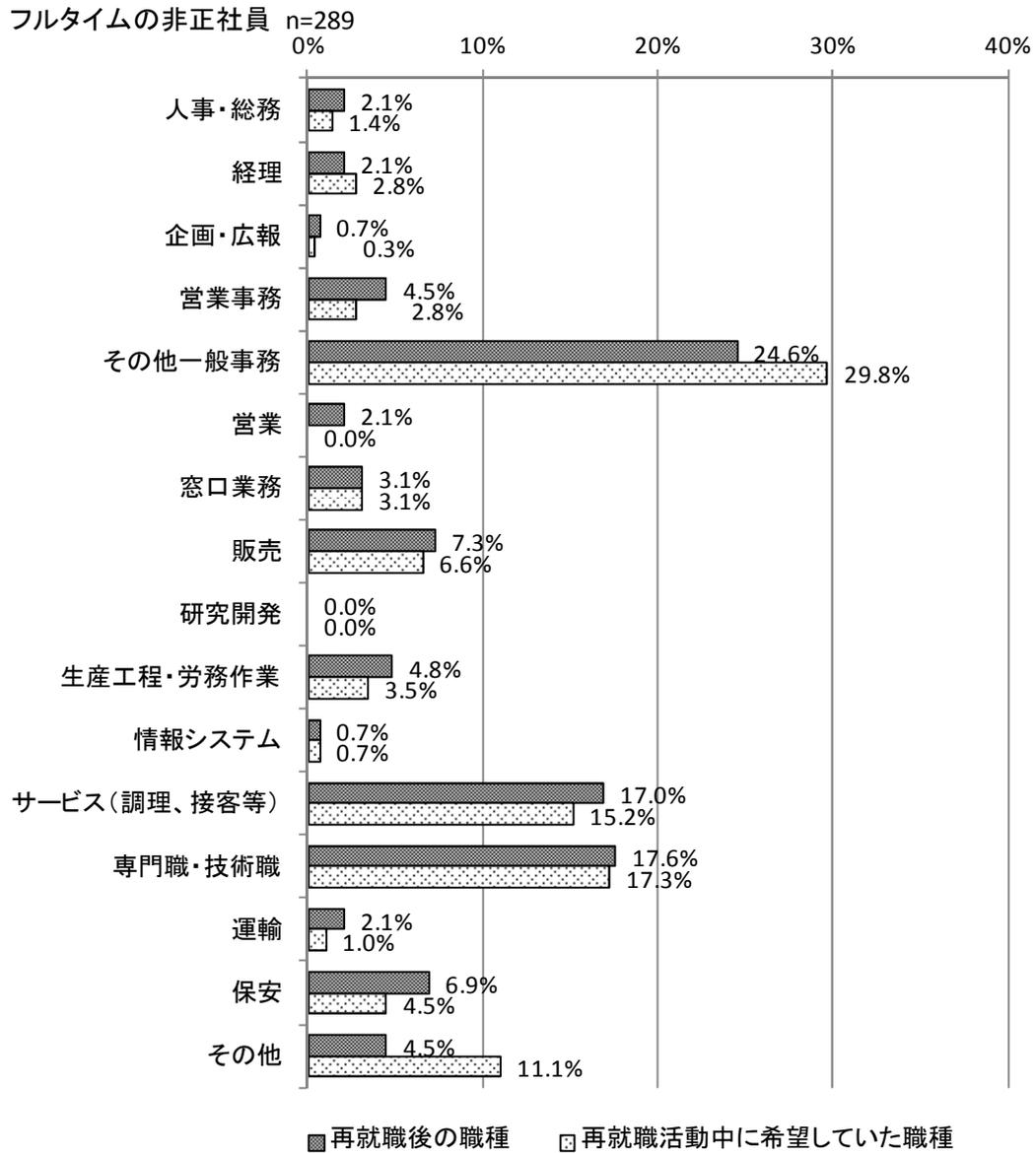
フルタイムの非正社員は、「その他一般事務」で、希望（29.8%）と実際（24.6%）にやや差がみられるが、それ以外はあまり差がなく、「サービス（調理、接客等）」、「専門職・技術職」はともに2割弱となっている。

短時間の非正社員は、他と比較して「その他一般事務」の希望（27.1%）と実際（17.5%）の差が最も大きい。また、「サービス（調理、接客等）」や、「販売」では、希望（15.4%、7.1%）に対して実際（21.2%、12.0%）の割合が高くなっている。

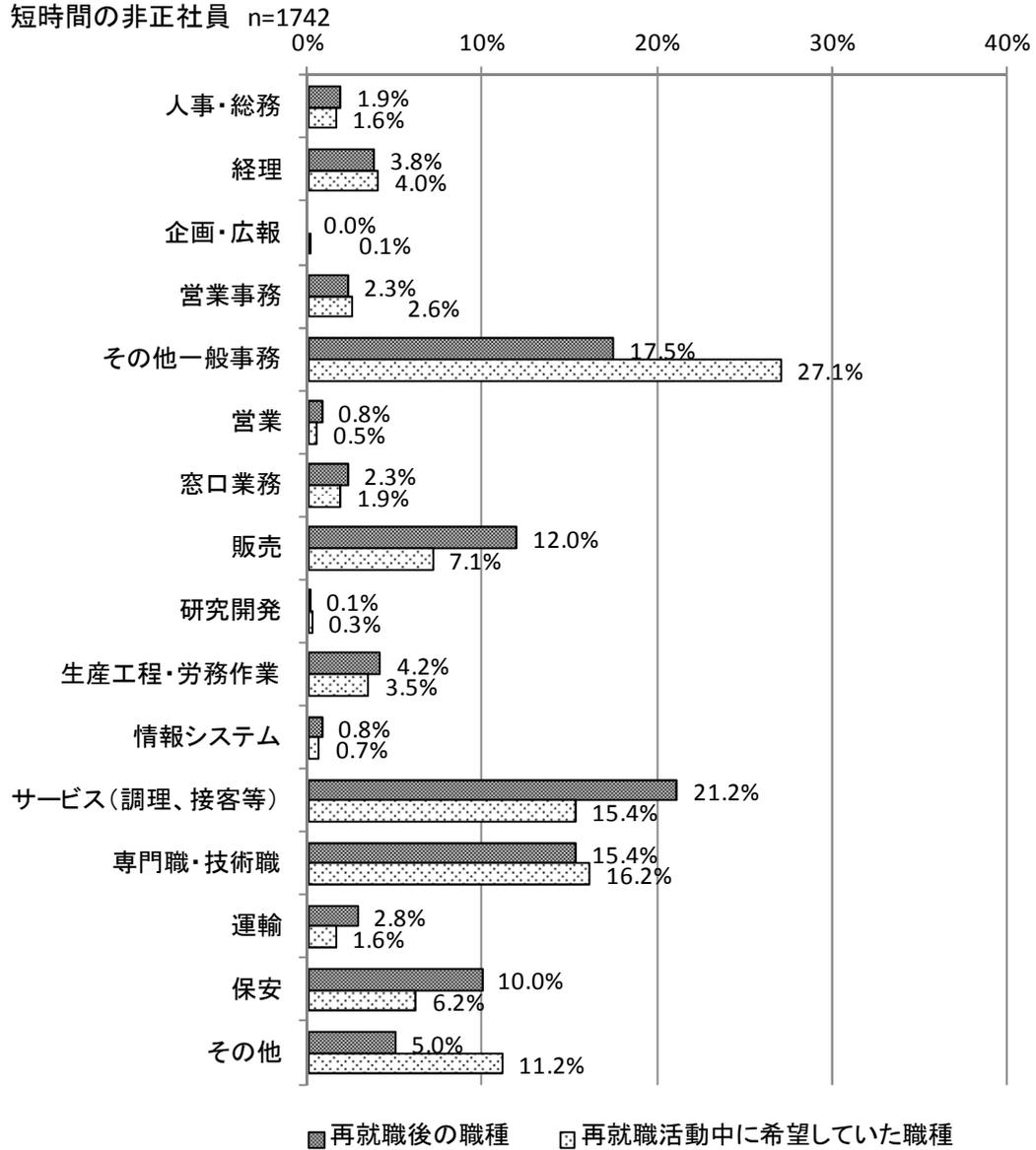
図表 32 求職活動中の職種の希望と、再就職後の職種【正社員】：単数回答（Q20）



図表 33 求職活動中の職種の希望と、再就職後の職種【フルタイムの非正社員】：単数回答（Q20）

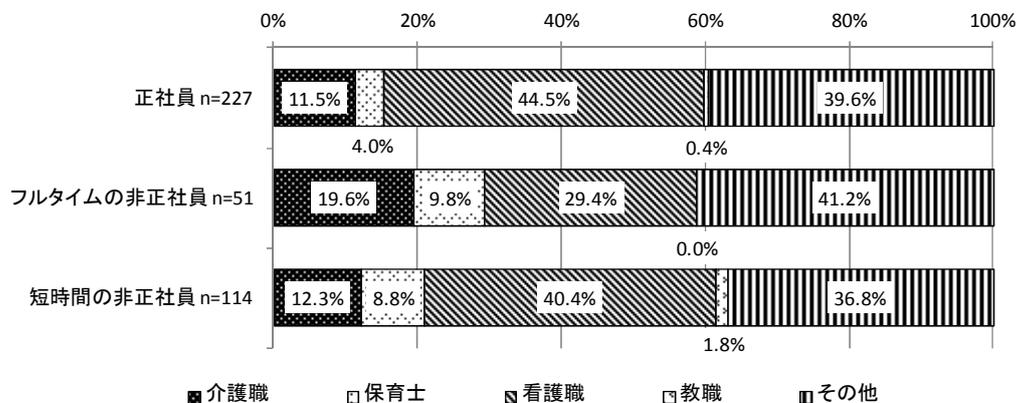


図表 34 求職活動中の職種の希望と、再就職後の職種【短時間の非正社員】：単数回答（Q20）



さらに、再就職後の職種が「専門職・技術職」の人についてその具体的な内容をみると、正社員及び短時間の非正社員は、フルタイムの非正社員と比較して、「看護職」の割合が4割強と高い。一方、フルタイムの非正社員は、他と比較して「介護職」（19.6％）の割合が高い。

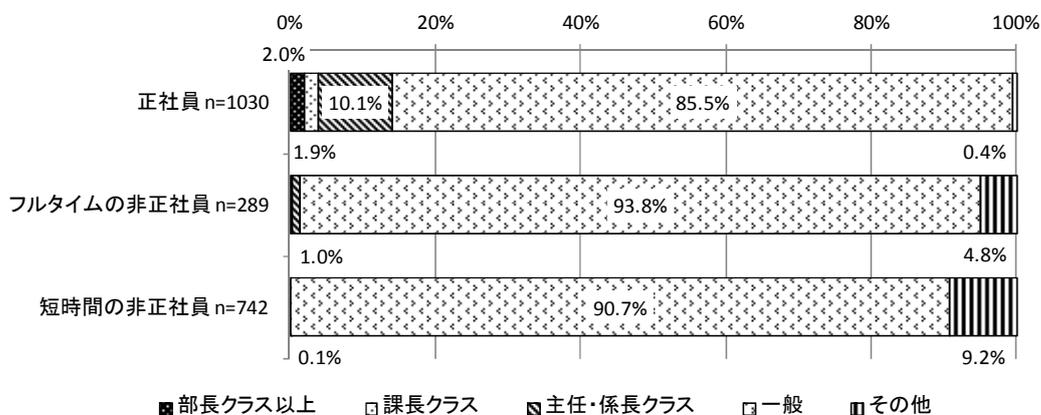
図表 35 専門職・技術職の具体的な内容（再就職後）：単数回答（Q21）



③ 役職

現在の役職をみると、正社員では、「一般」が85.5%、次いで「主任・係長クラス」が10.1%となっている。フルタイムの非正社員、短時間の非正社員は、「一般」が9割以上を占めている。

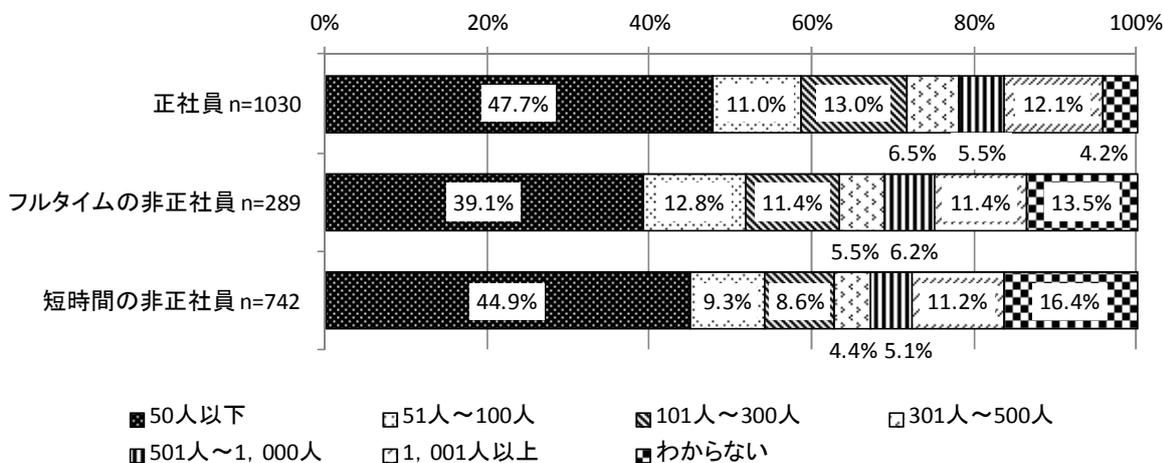
図表 36 役職：単数回答（Q22）



④従業員規模

現在の勤務先の従業員規模をみると、正社員、非正社員とも「50人以下」が最も割合が高く、4～5割前後を占めている。また、「1,001人以上」の割合は、1割強となっている。

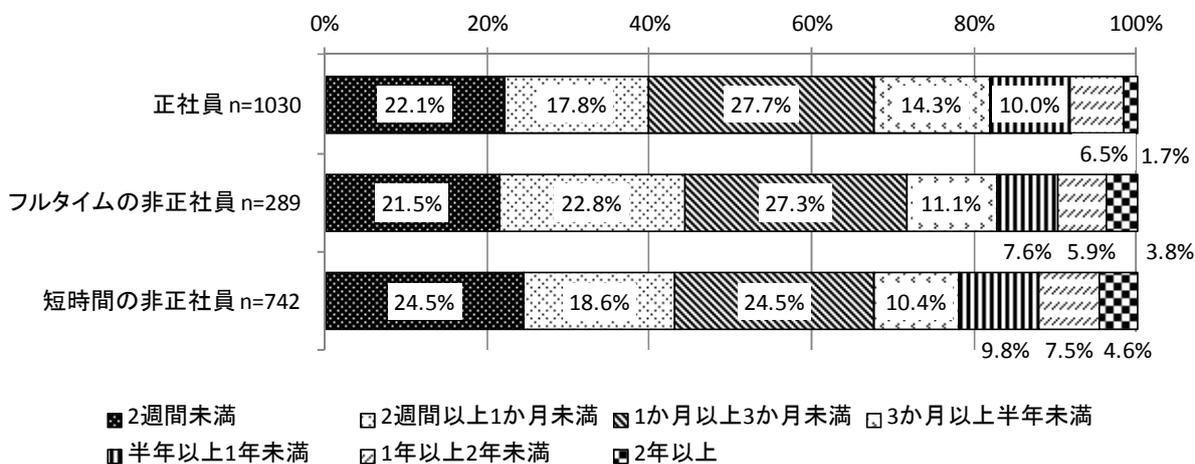
図表 37 従業員規模：単数回答 (Q23)



(2) 再就職の際の求職期間

再就職の際の求職期間をみると、正社員、非正社員とも「1か月以上3か月未満」が2～3割で最も割合が高い。また、「2週間未満」、「2週間以上1か月未満」を合わせた『1か月未満』の割合は、4割前後となっている。

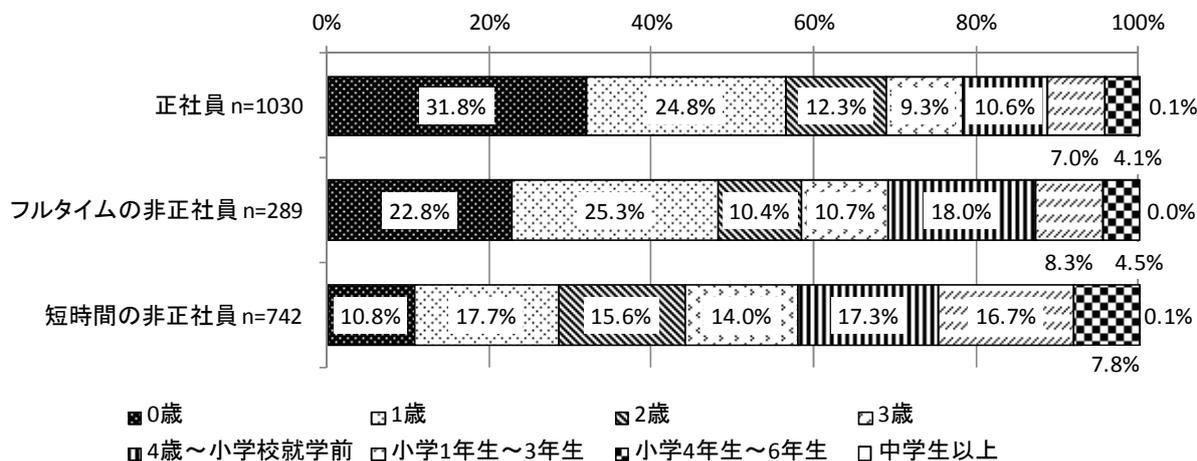
図表 38 再就職の際の求職期間：単数回答 (Q24)



(3) 再就職時の末子年齢

再就職時の末子の年齢をみると、正社員、フルタイムの非正社員、短時間の非正社員の順に年齢が高くなっている。「正社員」は、「0歳」（31.8%）と「1歳」（24.8%）を合わせると半数以上を占めており、比較的孩子が小さい時期に再就職している人が多い傾向にある。一方、短時間の非正社員は、2歳以上で71.5%であり、子どもがある程度大きくなってから再就職している人が多い。

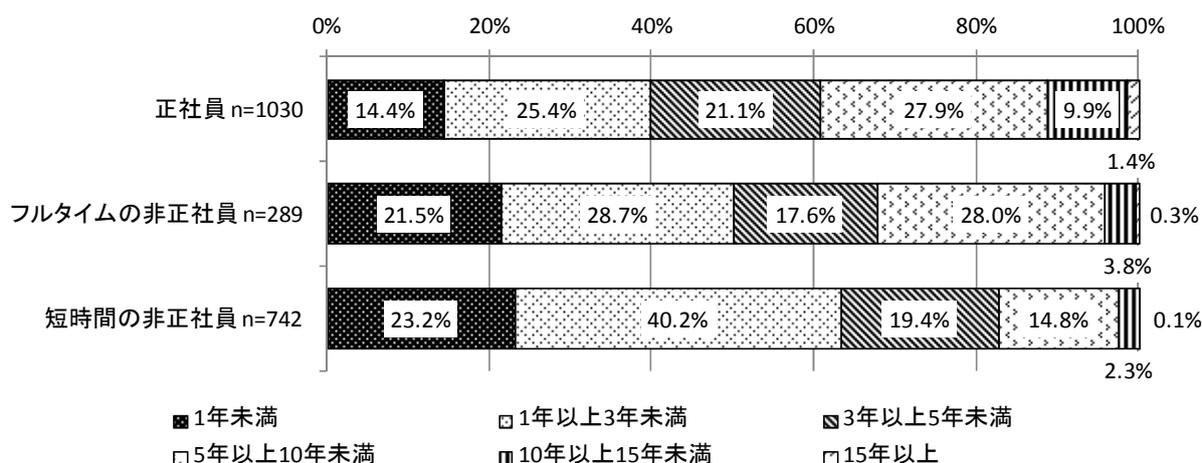
図表 39 再就職時の末子年齢：単数回答（Q25）



(4) 現在の勤務先での勤続年数

現在の勤務先での勤続年数をみると、短時間の非正社員、フルタイムの非正社員、正社員の順に長くなる傾向にあり、正社員は他と比較して「10年以上15年未満」（9.9%）の割合が高く、「5年以上10年未満」（27.9%）を合わせると約4割を占めている。一方、短時間の非正社員は、他と比較して「1年未満」（23.2%）、「1年以上3年未満」（40.2%）の割合が高い。

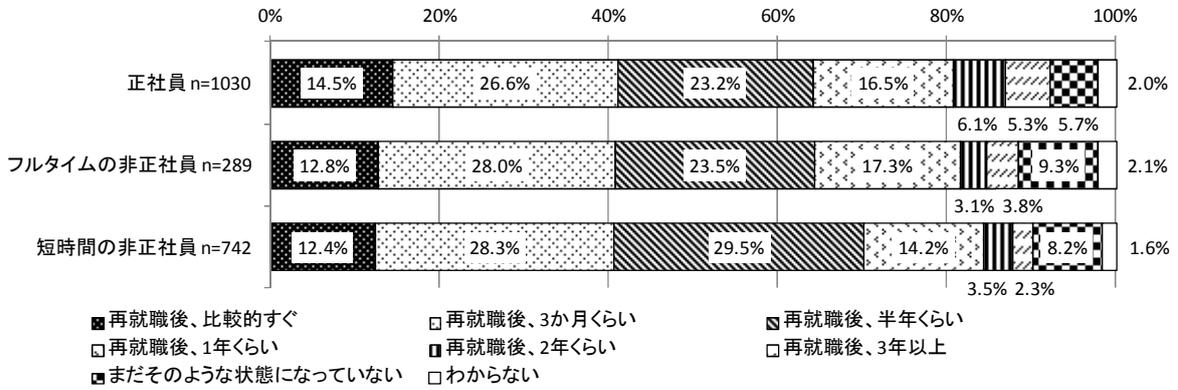
図表 40 現在の勤務先での勤続年数：単数回答（Q26）



(5) 再就職後、仕事に慣れるまでの期間

再就職後、「仕事に慣れた、仕事をこなせるようになった」と感じるようになるまでの期間をみると、正社員、非正社員とも「再就職後、3か月くらい」までが4割以上、「再就職後、半年くらい」までが6割以上となっている。

図表 41 再就職後、仕事に慣れるまでの期間：単数回答（Q27）

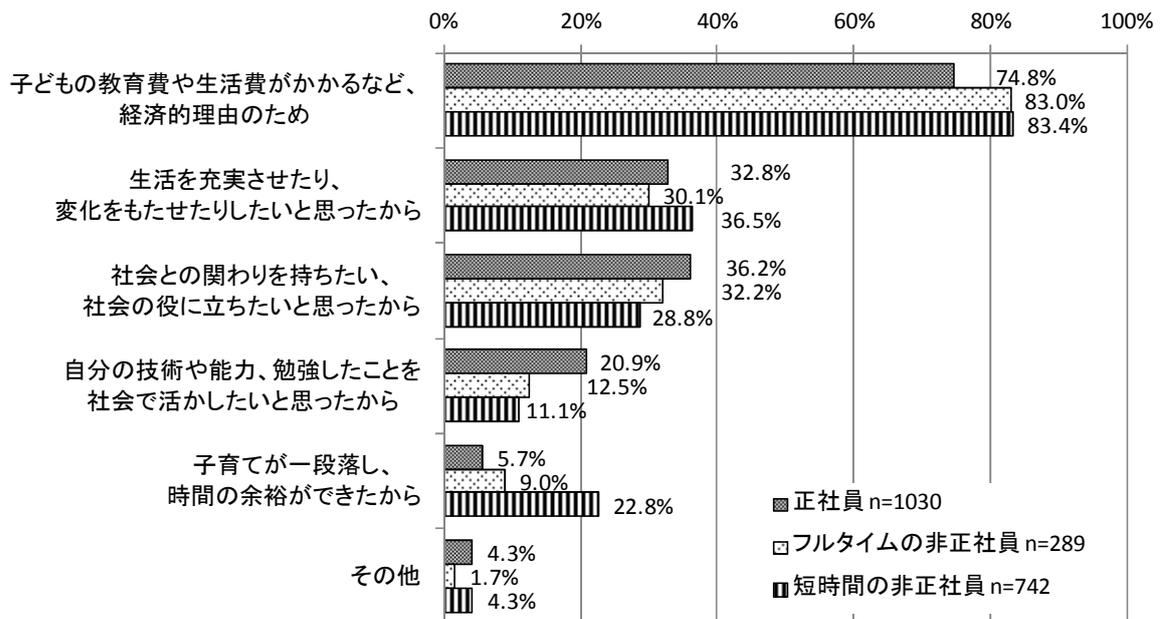


(6) 再就職した理由

再就職した理由をみると、正社員、非正社員とも「子どもの教育費や生活費がかかるなど、経済的理由のため」が7～8割前後で最も多い。

ただし、正社員は、他と比較して「社会との関わりを持ちたい、社会の役に立ちたいと思ったから」（36.2%）や、「自分の技術や能力、勉強したことを社会で活かしたいと思ったから」（20.9%）の割合が高い傾向にある。一方、短時間の非正社員は、他と比較して「子育てが一段落し、時間の余裕ができたから」（22.8%）の割合が高い。

図表 42 再就職した理由：複数回答（Q28）

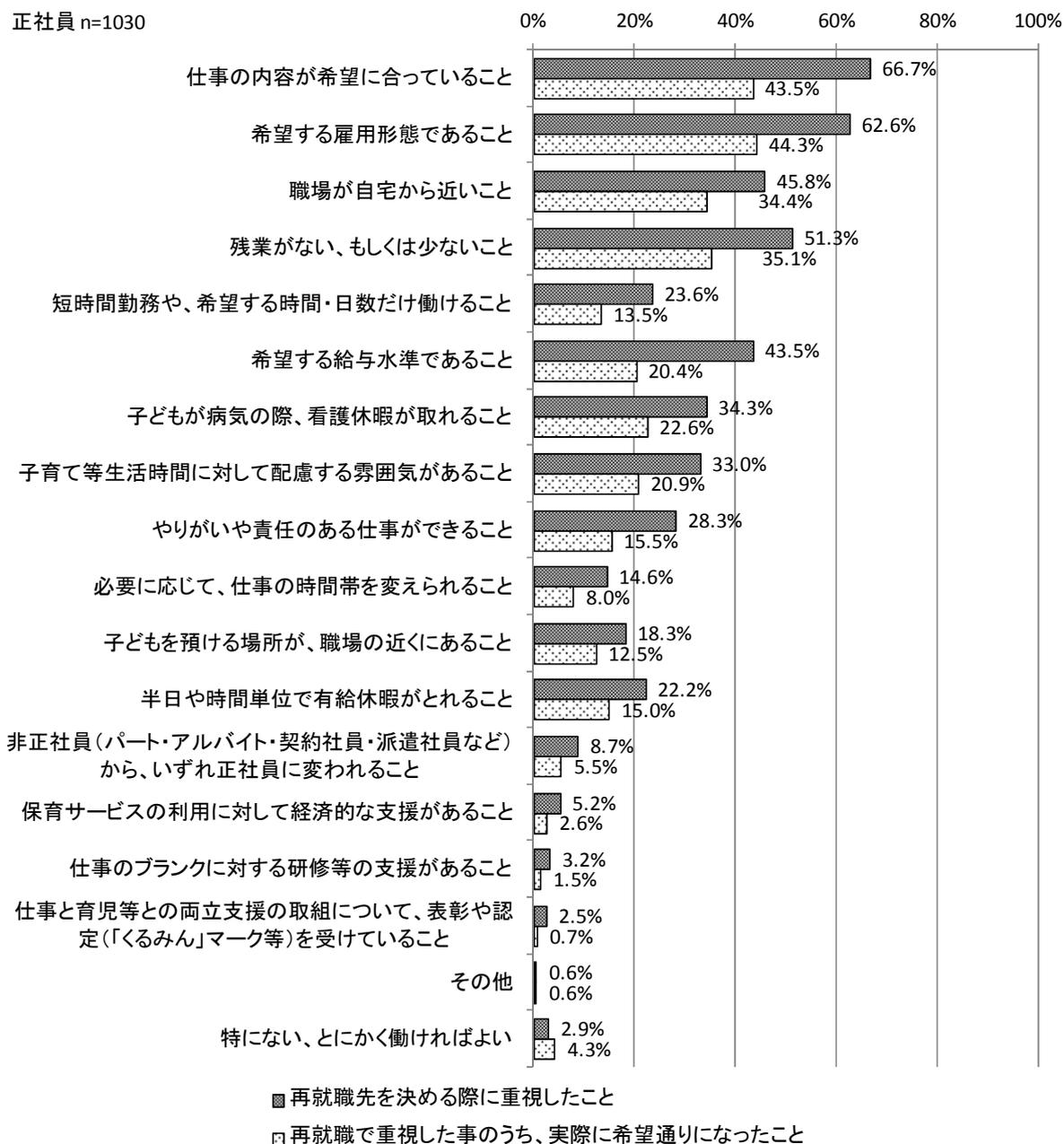


(7) 再就職先を決める際に重視したこと等

再就職先を決める際に重視したことをみると、正社員は「仕事の内容が希望に合っていること」(66.7%)、「希望する雇用形態であること」(62.6%)、「残業がない、もしくは少ないこと」(51.3%)などが上位にあげられている。

重視したことのうち、希望通りになったこととの差をみると、「仕事の内容が希望に合っていること」(差 23.2 ポイント)、「希望する給与水準であること」(差 23.1 ポイント)などで、両者の差が大きくなっている。

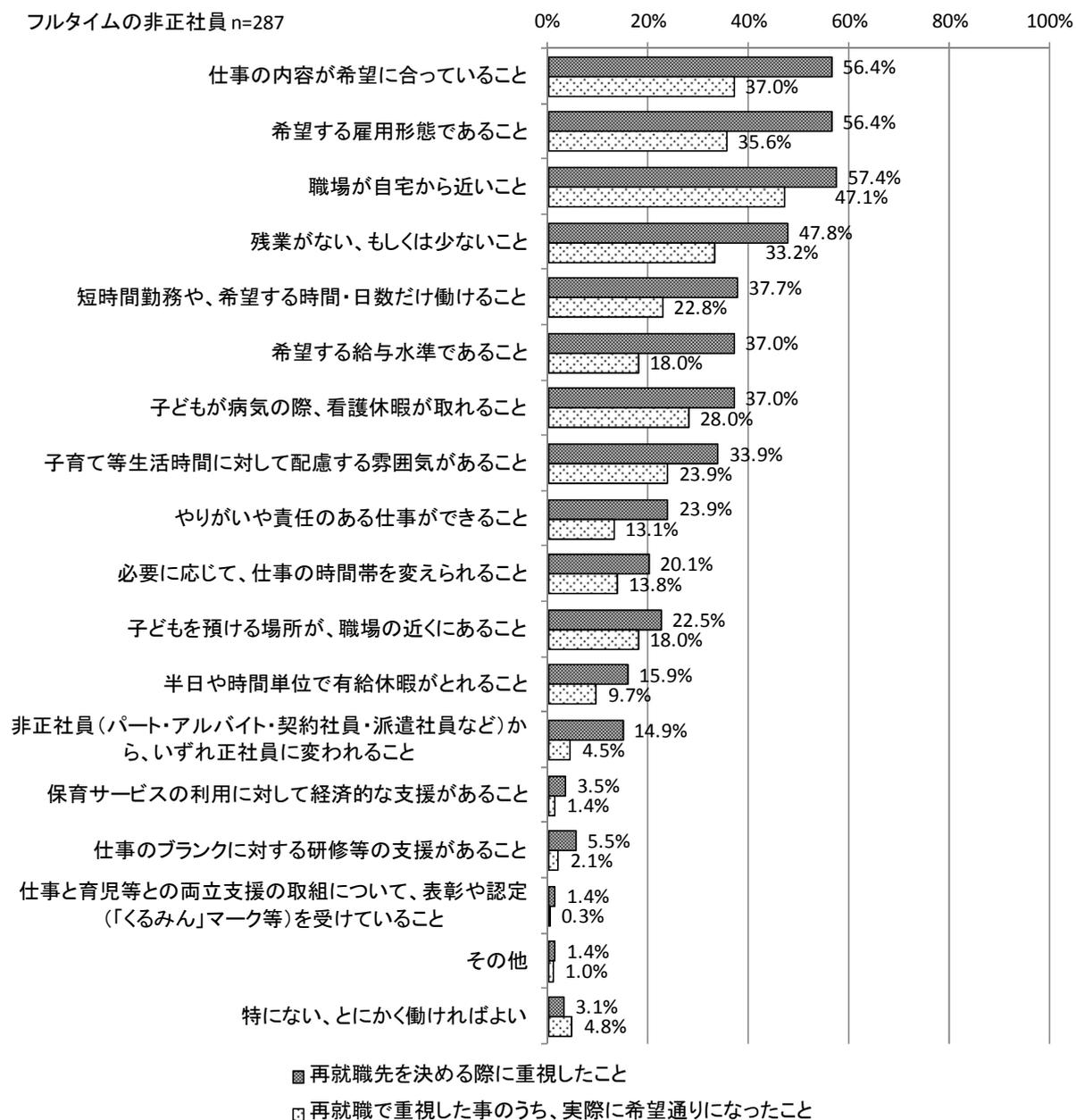
図表 43 再就職先を決める際に重視したこと等【正社員】：複数回答 (Q29)



フルタイムの非正社員については、「職場が自宅から近いこと」(57.4%)、「仕事の内容が希望に合っていること」(56.4%)、「希望する雇用形態であること」(56.4%)などが上位にあげられている。

重視したことのうち、希望通りになったこととの差をみると、「希望する雇用形態であること」(差 20.8 ポイント)、「仕事の内容が希望に合っていること」(差 19.4 ポイント)、「希望する給与水準であること」(差 19.0 ポイント)などで両者の差が大きくなっている。

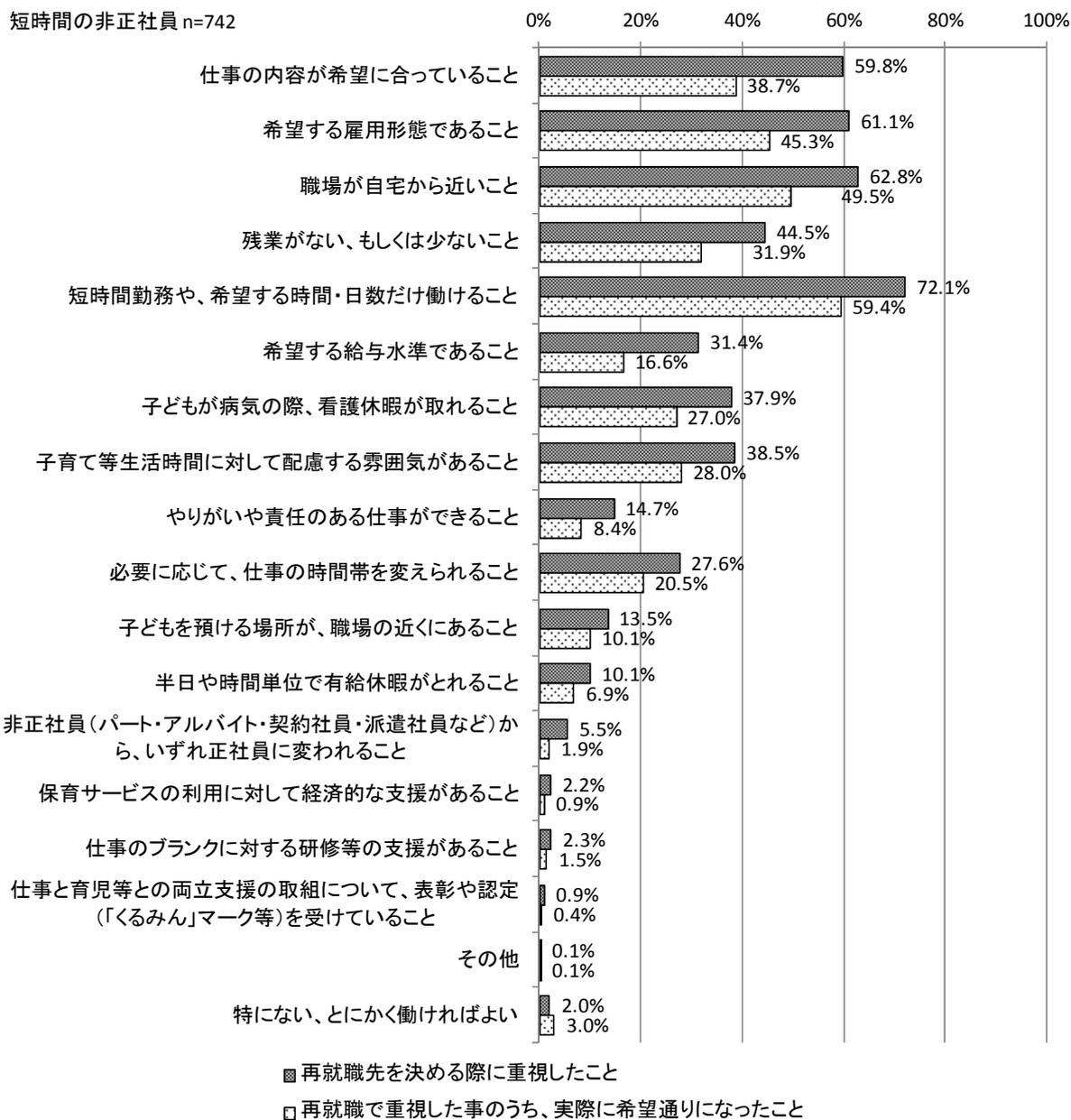
図表 44 再就職先を決める際に重視したこと等【フルタイムの非正社員】：複数回答 (Q29)



短時間の非正社員については「短時間勤務や、希望する時間・日数だけ働けること」(72.1%)、「職場が自宅から近いこと」(62.8%)、「希望する雇用形態であること」(61.1%)などが上位にあげられている。

重視したことのうち、希望通りになったこととの差をみると、「仕事の内容が希望に合っていること」(差 21.1 ポイント)、「希望する雇用形態であること」(差 15.8 ポイント)などで両者の差が大きくなっている。

図表 45 再就職先を決める際に重視したこと等【短時間の非正社員】：複数回答 (Q29)

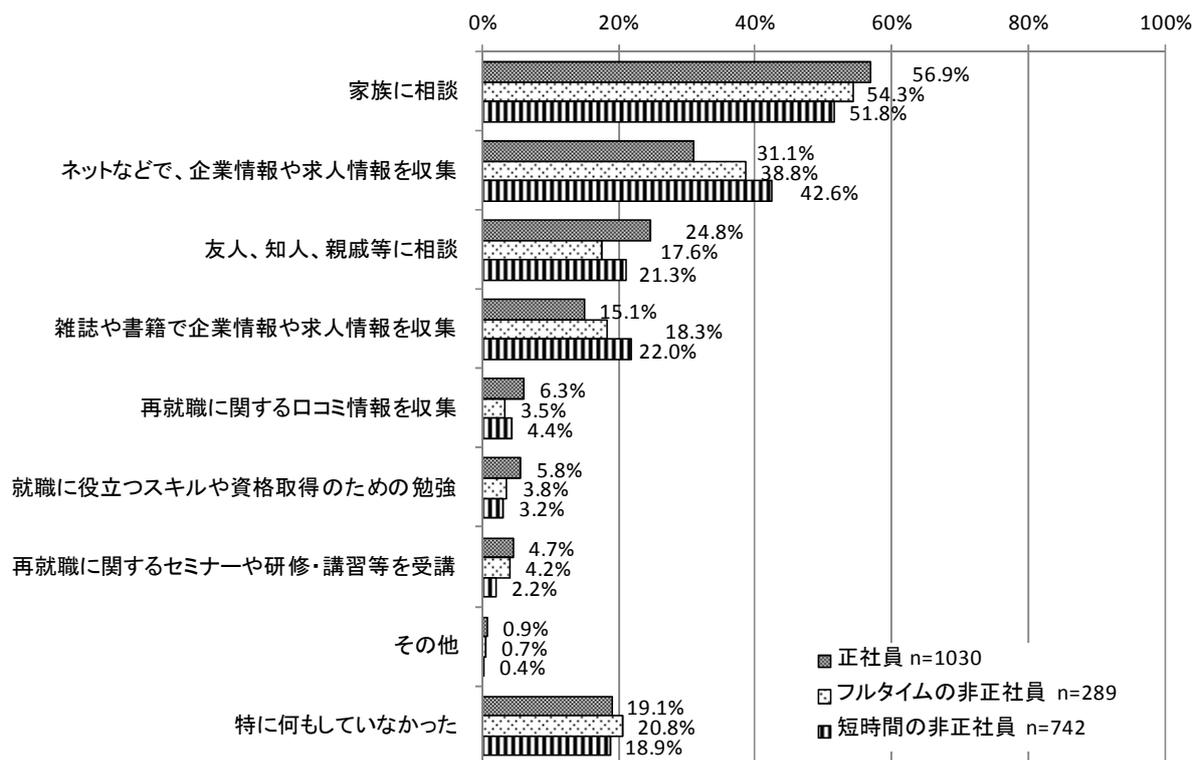


(8) 離職期間中、求職活動を始める前に取り組んでいたこと

離職期間中、求職活動を始める前に取り組んでいたことをみると、正社員、非正社員とも「家族に相談」、「ネットなどで、企業情報や求人情報を収集」が上位にあげられている。

また、就業形態別にみると、正社員は他と比較して「家族に相談」（56.9％）の割合が高い一方、短時間の非正社員は、「ネットなどで、企業情報や求人情報を収集」（42.6％）、「雑誌や書籍で企業情報や求人情報を収集」（22.0％）などの割合が高い傾向にある。

図表 46 離職期間中、求職活動を始める前に取り組んでいたこと：複数回答（Q30）



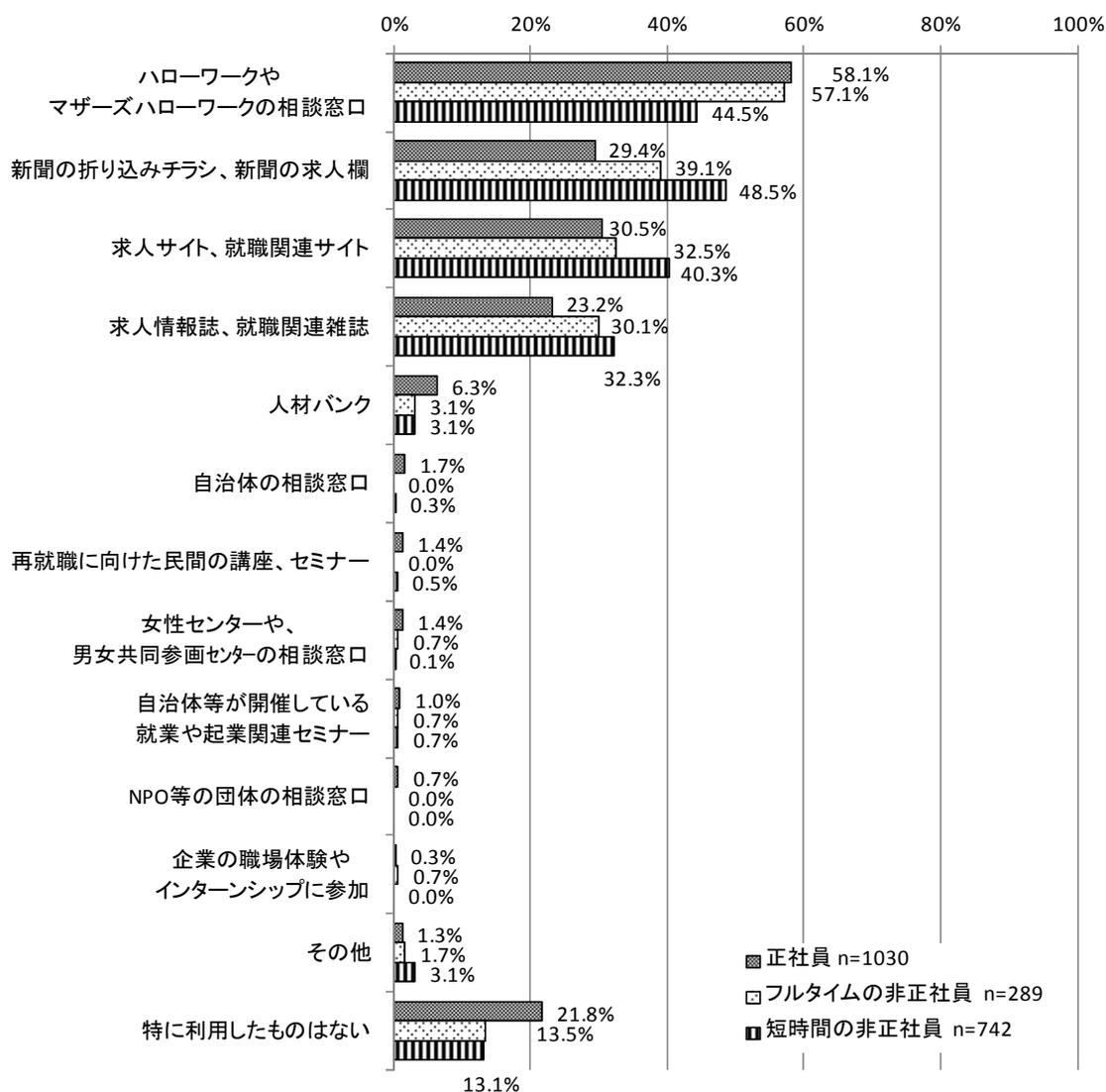
(9) 求職活動中に利用した機関や情報サービス

求職活動中に利用したサービスや機関をみると正社員及びフルタイムの非正社員は、「ハローワークやマザーズハローワークの相談窓口」がそれぞれ58.1%、57.1%で最も多くあげられている。

短時間の非正社員は、「新聞の折り込みチラシ、新聞の求人欄」(48.5%)が最も割合が高く、他と比較して、「求人サイト、就職関連サイト」(40.3%)や「求人情報誌、就職関連雑誌」(32.3%)の利用も多い傾向にある。

一方、「特に利用したものはない」は、正社員で割合が高く、21.8%と2割強を占めている。

図表 47 求職活動中に利用した機関や情報サービス：複数回答 (Q31)



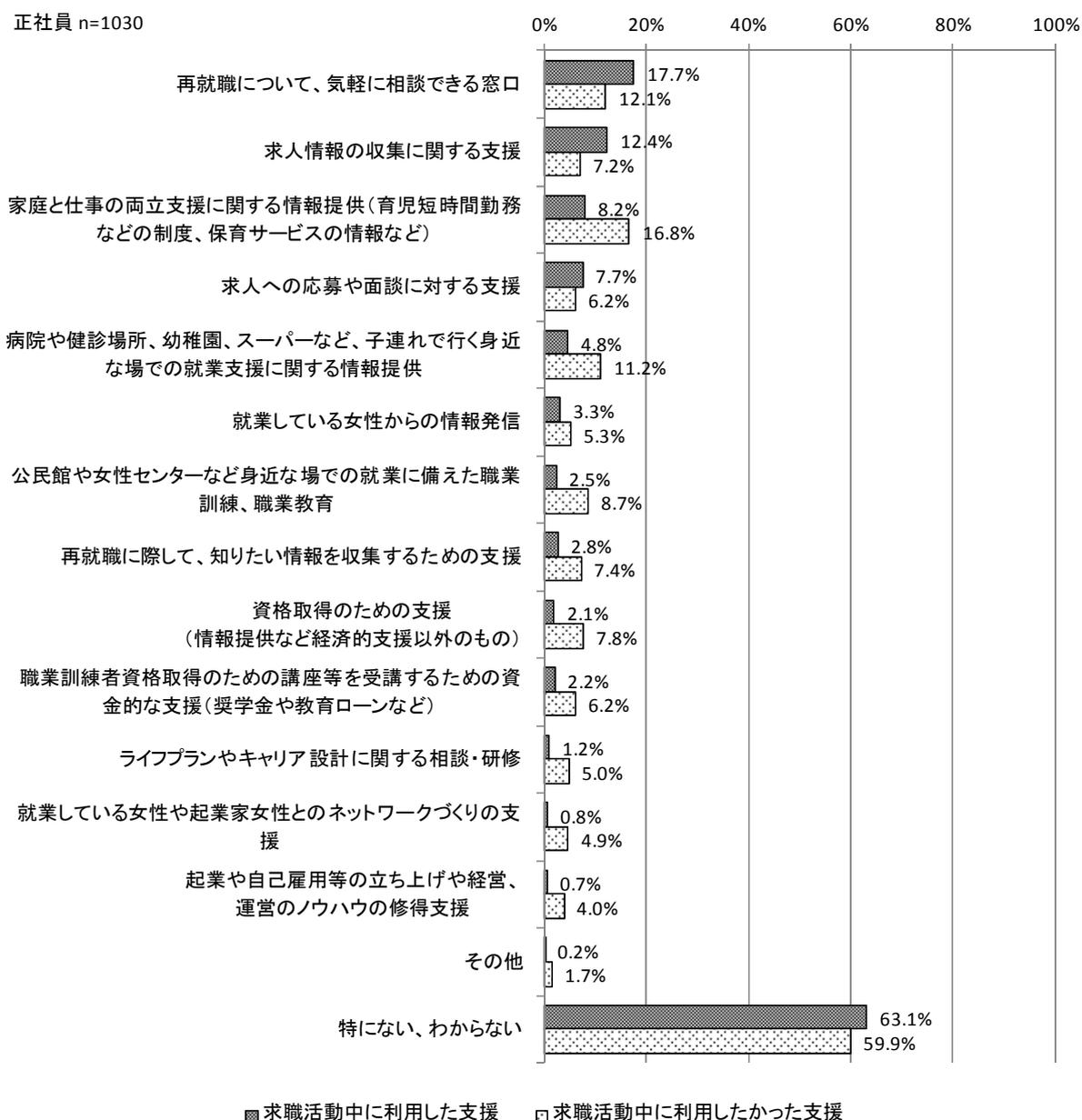
(10) 求職活動中に利用した支援／利用しなかった支援

求職活動中に利用した支援をみると、正社員は「再就職について、気軽に相談できる窓口」(17.7%)、「求人情報の収集に関する支援」(12.4%)などが上位にあげられている。

利用しなかった支援をみると、「家庭と仕事の両立支援に関する情報提供(育児短時間勤務などの制度、保育サービスの情報など)」(16.8%)、「再就職について、気軽に相談できる窓口」(12.1%)などが上位にあげられている。そのほか、利用したものとの差が大きいものとしては、「病院や健診場所、幼稚園、スーパーなど、子連れで行く身近な場での就業支援に関する情報提供」(差 6.4 ポイント)などがあげられる。

また、「特にない、わからない」は、利用経験、利用希望とも6割前後となっている。

図表 48 求職活動中に利用した支援／利用しなかった支援【正社員】：複数回答(Q32)

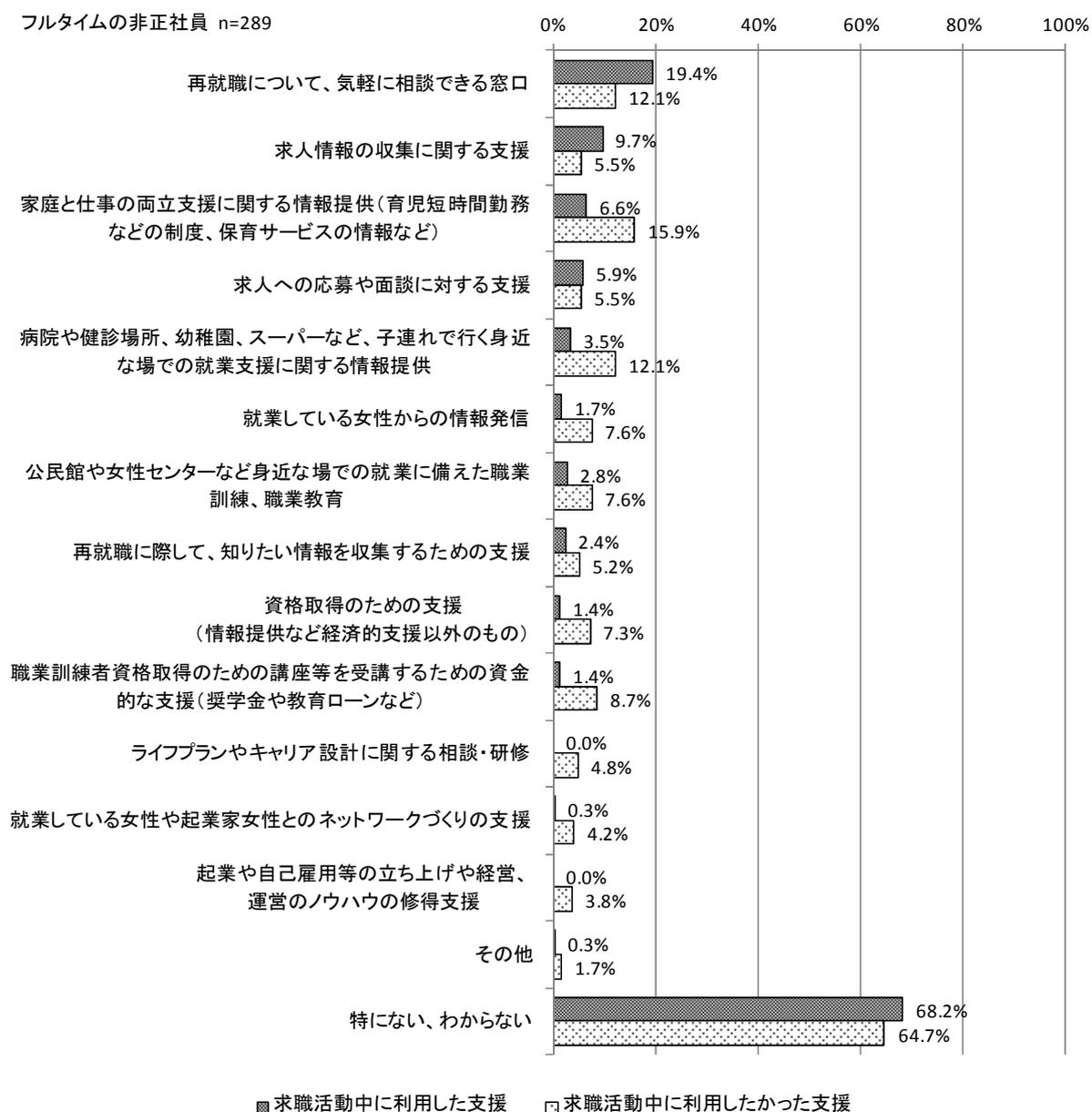


フルタイムの非正社員は「再就職について、気軽に相談できる窓口」(19.4%)が最も多く、次いで「求人情報の収集に関する支援」(9.7%)が上位にあげられている。

利用しなかった支援をみると、「家庭と仕事の両立支援に関する情報提供(育児短時間勤務などの制度、保育サービスの情報など)」(15.9%)、「再就職について、気軽に相談できる窓口」(12.1%)、「病院や健診場所、幼稚園、スーパーなど、子連れで行く身近な場での就業支援に関する情報提供」(12.1%)などがあげられている。

また、「特にない、わからない」は利用経験、利用希望とも6~7割となっている。

図表 49 求職活動中に利用した支援／利用しなかった支援
【フルタイムの非正社員】：複数回答(Q32)

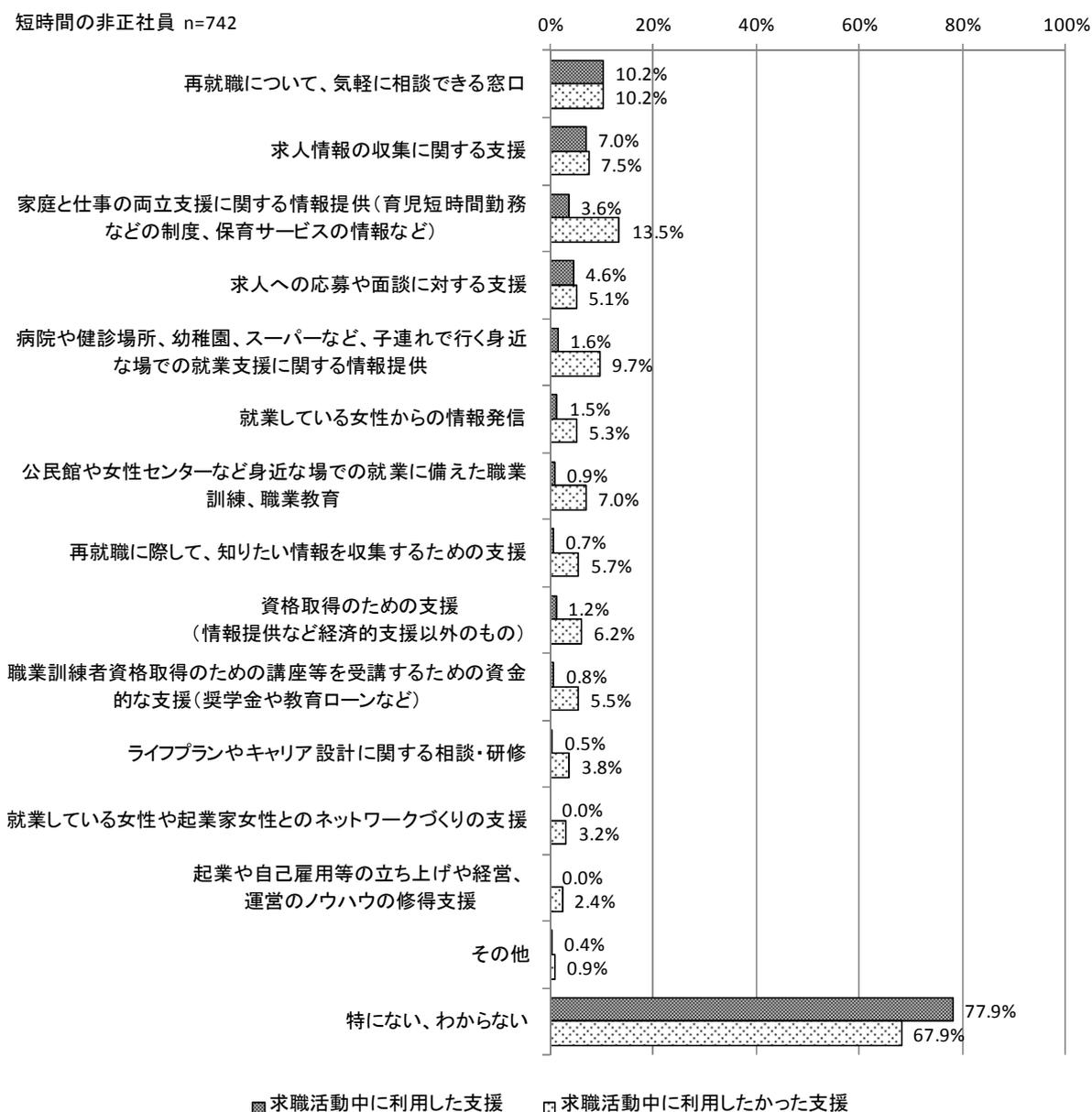


短時間の非正社員は「再就職について、気軽に相談できる窓口」(10.2%)、「求人情報の収集に関する支援」(7.0%)などが上位であるが、いずれも正社員、フルタイムの非正社員に比べると利用割合は低い。

利用しなかった支援をみると、「家庭と仕事の両立支援に関する情報提供(育児短時間勤務などの制度、保育サービスの情報など)」(13.5%)、「再就職について、気軽に相談できる窓口」(10.2%)、「病院や健診場所、幼稚園、スーパーなど、子連れで行く身近な場での就業支援に関する情報提供」(9.7%)などが上位にあげられている。

また、「特にない、わからない」は利用経験、利用希望とも7～8割前後となっている。

図表 50 求職活動中に利用した支援／利用しなかった支援
【短時間の非正社員】：複数回答(Q32)

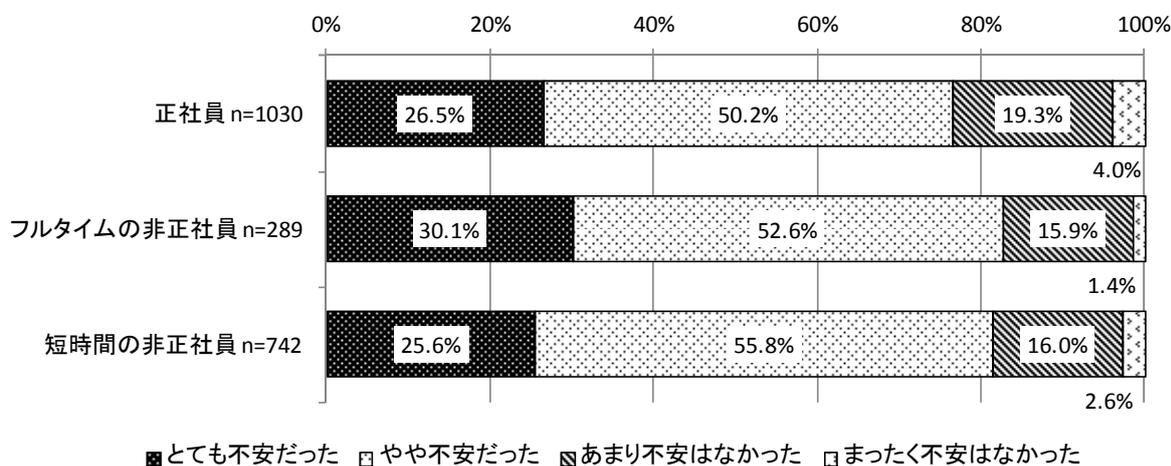


(11) 再就職にあたっての不安

①再就職にあたっての不安

再就職にあたっての不安をみると、正社員、非正社員とも「とても不安だった」と「やや不安だった」を合わせた、不安のあった人が8割前後を占めている。

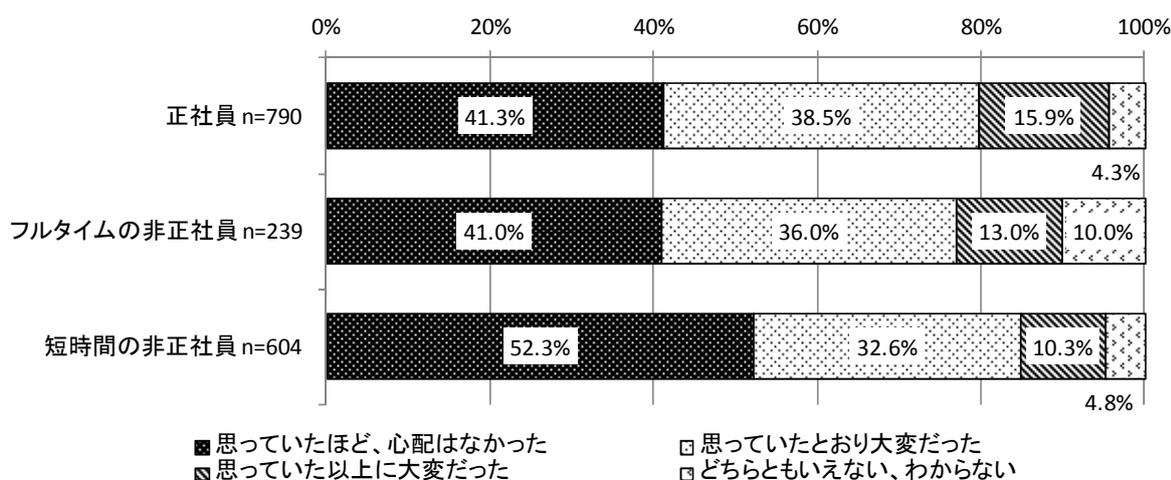
図表 51 再就職にあたっての不安：単数回答（Q33）



②再就職前に感じていた不安と実際

再就職前に不安を感じていた人について、実際に再就職後どうだったかをきいたところ、正社員、非正社員とも「思っていたほど、心配はなかった」が4～5割強で最も割合が高い。一方で、「思っていたとおりに大変だった」が3～4割、「思っていた以上に大変だった」も1割以上を占めており、短時間の非正社員、フルタイムの非正社員、正社員の順に、実際に再就職してみて大変だったとする割合が高くなる傾向がみられる。

図表 52 再就職前に感じていた不安と実際：単数回答（Q34）



③再就職前に不安だったことと、実際に働いてみると心配なかったこと

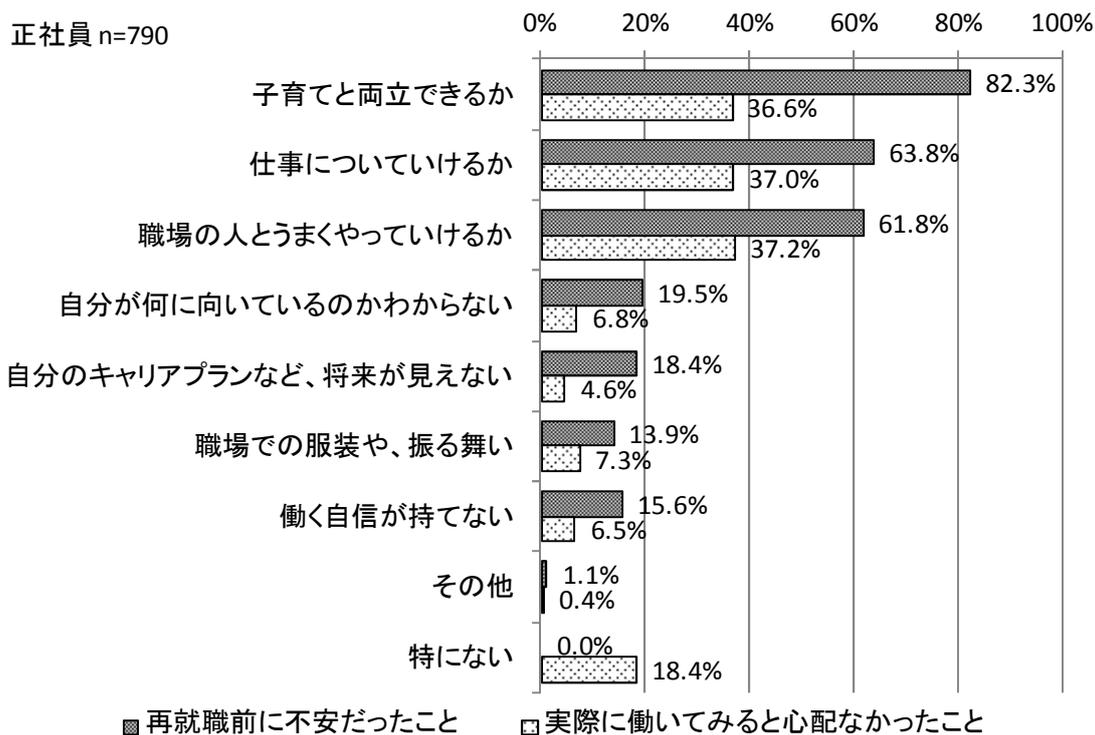
再就職前に不安があった人について、具体的にその内容と、実際に働いてみると思っていたほど心配はなかったことをきいた。

正社員は「子育てと両立できるか」(82.3%)、「仕事についていけるか」(63.8%)、「職場の人とうまくやっていけるか」(61.8%)などが上位にあげられている。

実際に働いてみると心配なかったこととの差をみると、「子育てと両立できるか」(差 45.7 ポイント)、「仕事についていけるか」(差 26.8 ポイント)などで、差が大きくなっている。

図表 53 再就職前に不安だったことと、実際に働いてみると心配なかったこと

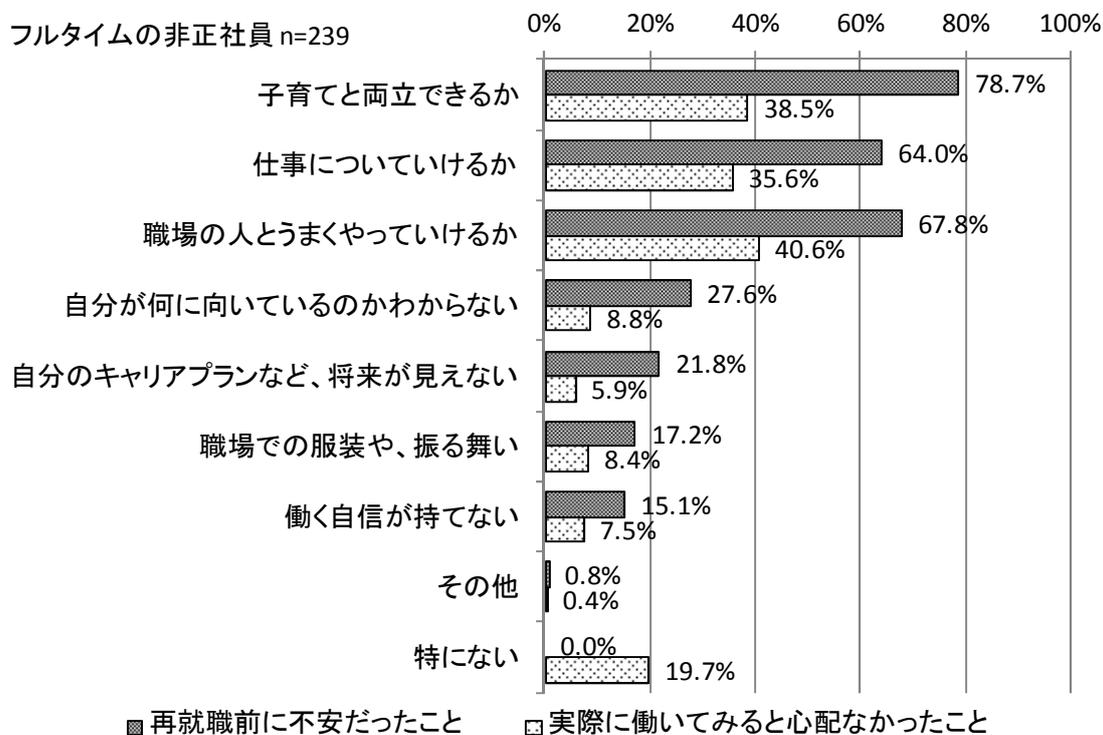
【正社員】：複数回答 (Q35)



フルタイムの非正社員については「子育てと両立できるか」(78.7%)、「職場の人とうまくやっていけるか」(67.8%)、「仕事についていけるか」(64.0%)などが上位にあげられている。

実際に働いてみると心配なかったこととの差をみると、「子育てと両立できるか」(差 40.2 ポイント)、「仕事についていけるか」(差 28.4 ポイント)などで、差が大きくなっている。

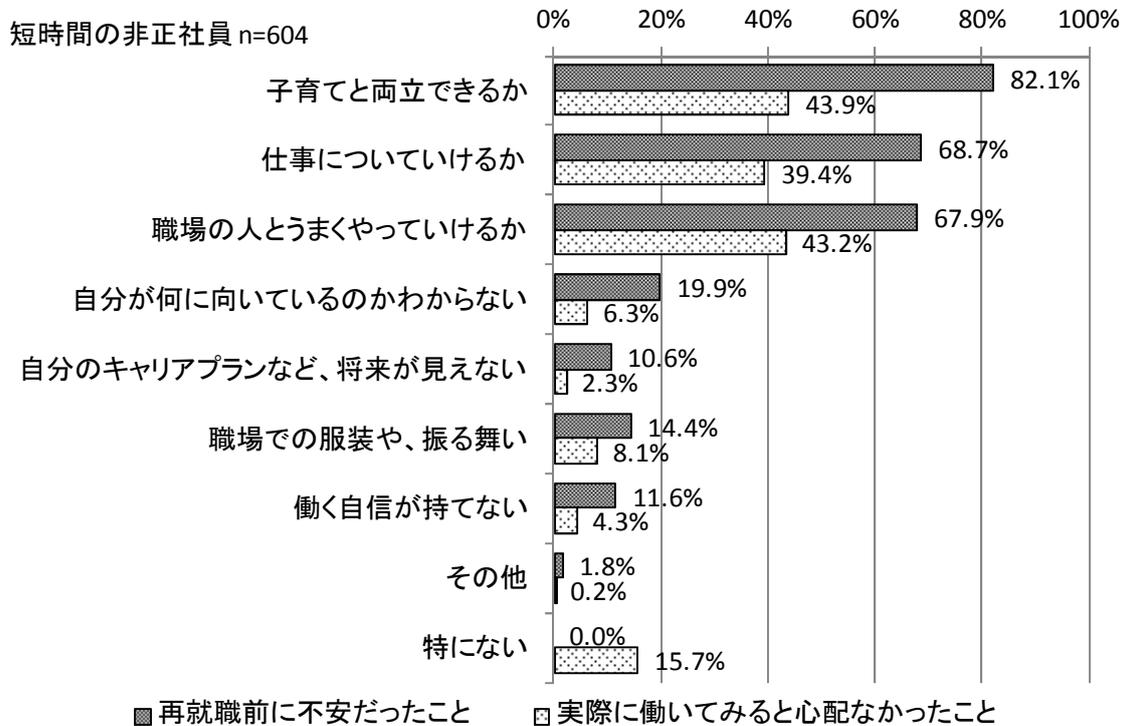
図表 54 再就職前に不安だったことと、実際に働いてみると心配なかったこと
【フルタイムの非正社員】：複数回答 (Q35)



短時間の非正社員については「子育てと両立できるか」(82.1%)、「仕事についていけるか」(68.7%)、「職場の人とうまくやっていけるか」(67.9%)などが上位にあげられている。

実際に働いてみると心配なかったこととの差をみると、「子育てと両立できるか」(差 38.2 ポイント)、「仕事についていけるか」(差 29.3 ポイント)などで、差が大きくなっている。

図表 55 再就職前に不安だったことと、実際に働いてみると心配なかったこと
【短時間の非正社員】：複数回答 (Q35)

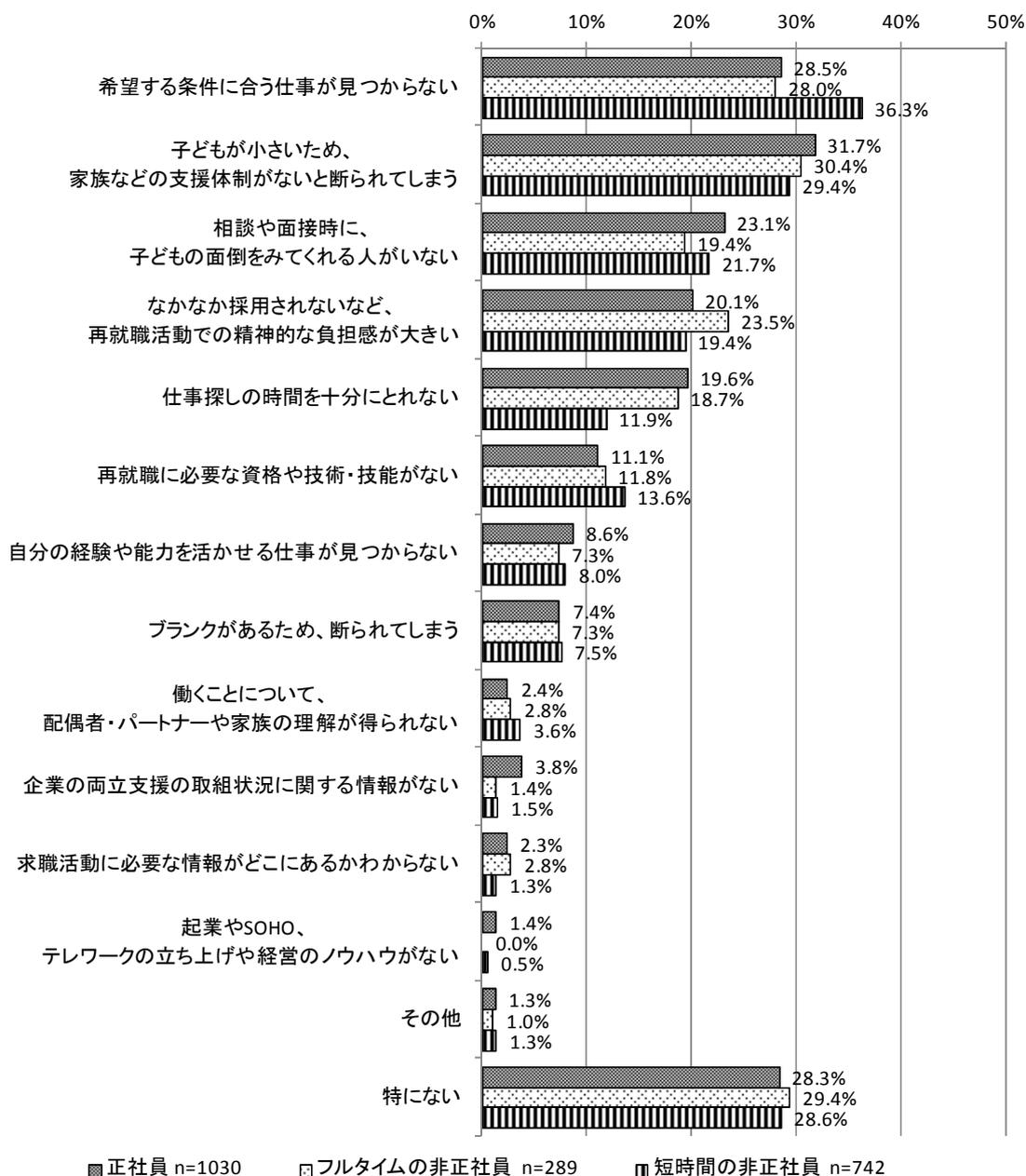


(12) 再就職活動で苦労した事

再就職活動で苦労した事をみると、正社員、非正社員とも「子どもが小さいため、家族などの支援体制がないと断られてしまう」、「希望する条件に合う仕事が見つからない」、「相談や面談時に、子どもの面倒をみてくれる人がいない」、「なかなか採用されないなど、再就職活動での精神的な負担感が大きい」などが上位にあげられている。

また、正社員及びフルタイムの非正社員は、短時間の非正社員と比べて、「仕事探しの時間を十分にとれない」(19.6%、18.7%)、短時間の非正社員は、他と比較して「希望する条件に合う仕事が見つからない」(36.3%)の割合が高い傾向がみられる。

図表 56 再就職活動で苦労した事：複数回答（Q36）

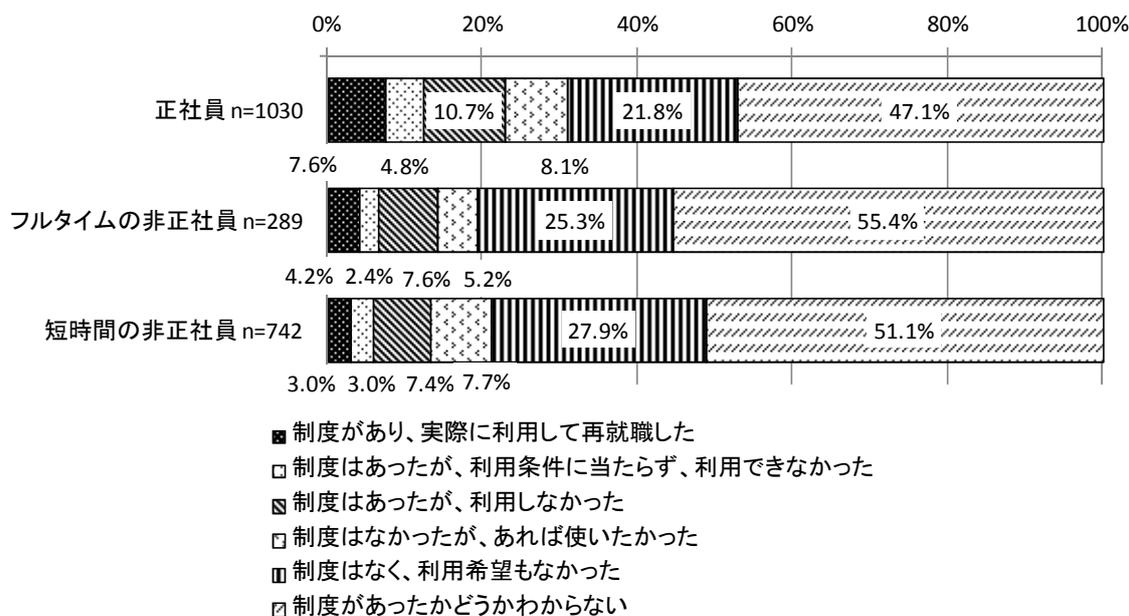


(13) 再雇用制度の利用状況

①以前勤めていた会社の再雇用制度の利用経験

再就職にあたって、以前勤めていた会社の再雇用制度を利用したかどうかをみると、正社員、非正社員とも「制度があったかどうかわからない」が半数前後で最も多く、次いで「制度はなく、利用希望もなかった」が2～3割を占めている。また、正社員では、他と比較して「制度があり、実際に利用して再就職した」(7.6%)の割合がやや高い。

図表 57 以前勤めていた会社の再雇用制度の利用経験：単数回答 (Q37)

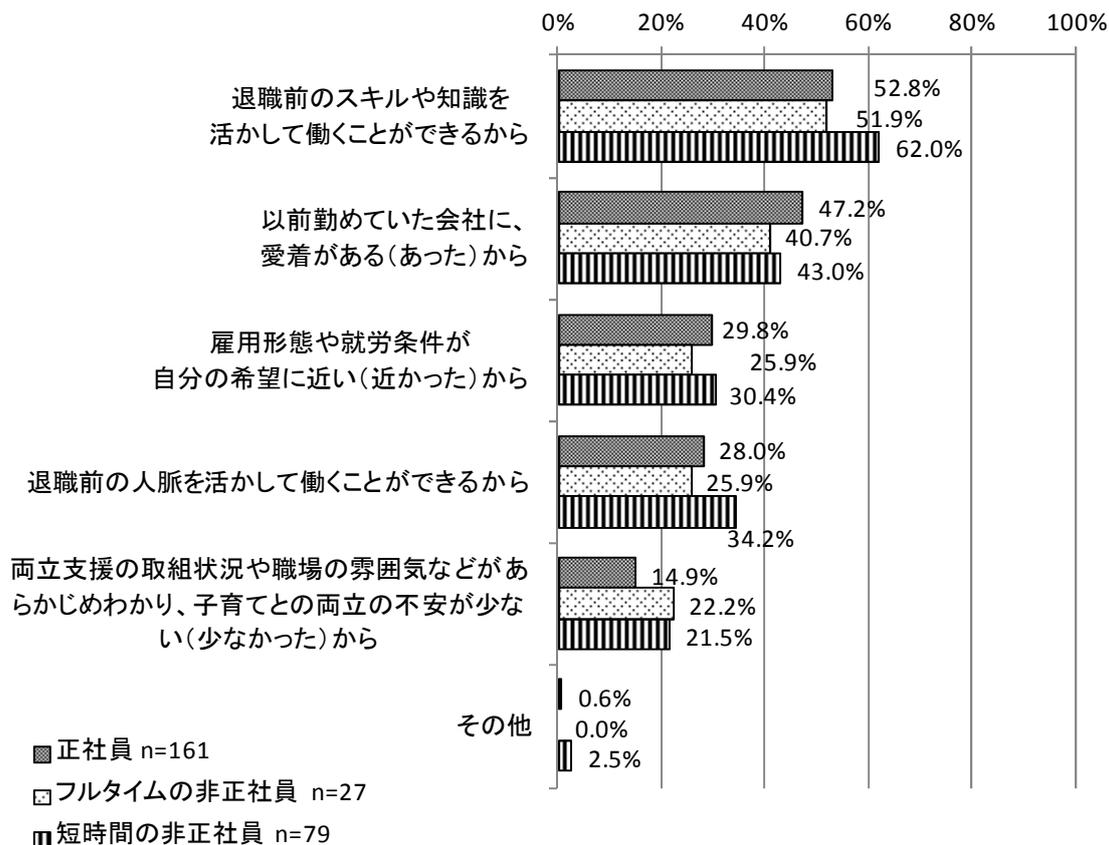


②再雇用制度を利用した／利用したいと思う理由

再就職にあたって、「制度があり、実際に利用して再就職した」もしくは「制度はなかったが、あれば使いたかった」と回答した人について、再雇用制度を利用した理由／利用したい理由をみると、「退職前のスキルや経験を活かして働くことができるから」、「以前勤めていた会社に、愛着がある(あった)から」などが上位にあげられている。

短時間の非正社員は、他と比較して「退職前のスキルや知識を活かして働くことができるから」(62.0%)、「退職前の人脈を活かして働くことができるから」(34.2%)の割合が高い傾向にある。

図表 58 再雇用制度を利用した／利用したいと思う理由：複数回答 (Q38)



③再雇用制度の利用条件に当てはまらなかった理由

再就職の際に、「再雇用制度はあったが、利用条件に当たらず、利用できなかった」と回答した人について、利用条件に当てはまらなかった理由を具体的にみると、正社員は「離職の理由が、制度の対象外だったから」(49.0%)、短時間の非正社員は「離職期間が長かったから」(27.3%)などの割合が高い。※サンプル数が少ないため留意が必要

図表 59 再雇用制度の利用条件に当てはまらなかった理由：複数回答 (Q39)

